

『AMI-CSにおけるIMPELLA CPのhigh Pレベルバーデンと梗塞心筋量の関連』 に関するご協力のお願い

研究の目的と意義	Danger shock試験以降、AMI-CS（急性心筋梗塞に伴う心原性ショック）におけるIMPELLA CPの使用頻度は増加しています。IMPELLA CP（以下「インペラ」）は、急性心不全の患者さんに使用するカテーテル式の血液ポンプです。血管の中を通して左心室の中に留置することで、心臓のように血液を全身に送り出す役割を果たします。インペラに期待する効果は、 ① 心筋梗塞によって低下した左室機能の代替となり、全身循環を維持すること ② 左心室へのUnloading効果による梗塞心筋範囲の縮小をはじめとした心筋保護効果です。 インペラはPレベル出力を上げることでより高流量の補助ができるデバイスであり、理論上はUnloading効果（※1）も強くなると考えられています。一方で、より高いPレベルでのインペラ使用は、溶血やサクションなどのイベントとも関連しうります。より高いPレベルバーデン（※2）により、梗塞心筋量が減ることがわかれば、できるだけ高いPレベルで急性期管理を行うことが、長期的な予後を改善しうる可能性が示唆されます。 ※1：臓器にかかる負荷を軽減することで、その機能を保護・回復させる効果 ※2：ICU入室からCK-MBピークアウトまでの間（心筋梗塞による心筋の壊死が止まるまでのことです。概ね心筋梗塞の発症から24時間前後とされます）でインペラのPレベル×同一Pレベルの時間の積分値
研究の方法	PレベルバーデンをPeak CK-MBまでの時間で割り、平均Pレベルを出して単回帰にて平均PレベルとPeak CK-MBとの関連を調査します。ただし、1時間または2時間以上同一のPレベルを維持できたもののみを対象とします。
対象者	2018年1月31日～2026年6月30日の間で、AMI-CS（急性心筋梗塞に伴う心原性ショック）の発症から来院まで12時間以内の患者さんのうち、インペラが挿入された患者さん
利用する試料/情報	情報等：インペラのPレベル及びその持続時間、Peak CK-MB及びPeak CK-MBまでの時間、Cre、遊離Hb
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	2027年開催の日本集中治療学会で発表予定、および、論文にて公表です。
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2027年4月30日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。 ただし、お申し出が研究結果公表後の場合は、撤回することが事実上難しい場合があります。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 集中治療科 / 医師 / 南川 竜輔
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 集中治療科 / 南川 竜輔